日立市立水木小学校

Ⅰ　実践

１　研究主題

互いを認め合い，思いやりや助け合いの心を育てる人権教育の在り方

（１）主題設定の理由

学校周辺には，泉前遺跡や「常陸の国風土記」に記されている泉が森など史跡が多い。

地域の人々は，地域の歴史に誇りをもち，「水木ささら」の継承に取り組むなど伝統を大切にする気持ちが強い。

児童は，明るく活発であるが，人と積極的に関わっていくことは苦手である。児童の中には，自分の気持ちや考えをうまく表現できない子や友だちとの関係を上手に築いていけない子が見られる。

本校は，東日本大震災で校庭や校舎に大きな被害を受けた。児童は，1 学期は３か所，２学期は，２か所に分かれる「分散型学校」や仮設校舎と新館校舎「２分散型」という特殊な環境の中での教育活動を余儀なくされた経験をもつ。

地域の方々や保護者からは，思いやりの心をもち，将来，地域の方々と助け合える児童の育成を願う声が大きい。

そこで，教育活動全体を通して，一人一人がお互いの良さを認め合い，思いやりの気持ちをもち，ともに助け合うことのできる児童を育てたいと考え本主題を設定した。

（２）研究の内容

ア　人権意識を育む体験活動
イ　地域の行事への参加
ウ　人権に関する啓発活動

２　実践内容

（１）人権意識を育む体験活動

ア　中学校や PTA と連携したあいさつ運動

毎朝，生活委員会の児童と教職員が昇降口近くに立ち，登校してくる児童にあいさつ運動を実施している。生活委員会の児童が，大きな声で元気にことばをかけるので，あいさつが苦手だった児童もいまでは元気にあいさつが返せるようになってきた。また，学期ごとにマナーアップ週間の時期に合わせて泉丘中学校の生徒や PTA の役員と連携したあいさつ運動を展開し，効果をあげている。

イ　いじめ 0（ゼロ）集会

毎年実施している児童集会である。まず，学級で話し合い，自分から「いじめ」宣誓書にサインする。「いじめ 0」シールを胸章に貼る。学級ごとにみんなで話し合って決めた「いじめのちかい」を発表する。集会後，自分の決意を『めばえノート』や『心のノート』に記入し保護者に読んでもらう。

学校だより，学年だより，生徒指導だより（はまぎく）などで「いじめ 0（ゼロ）運動」の取り組みの様子を保護者に知らせ，理解啓発を図っている。

〈いじめ０集会〉

ウ　のびのびタイム（縦割り異学年交流）

ロングの昼休みを月に 1 回程度設定し，1 年生から６年生まで縦割り班で交流する。５・６年生が班長になり，事前に班長会議を実施して遊ぶ内容を決めている。それぞれ８班に分かれドッジボールや大縄，リレー，鬼ごっこ，昔遊びなどを実施している。

班では，整列の仕方，遊び方など高学年が下級生に優しく言葉をかけて交流を深めている。異学年との交流する機会を得て，高学年のリーダーとしての意識が芽生えるとともに普段外遊びが苦手な子どもたちも自然に溶け込み，みんなと遊ぶ楽しさを感じる時間となる。

エ　地域の高齢者と交流

運動会では，4 年生が中心となって高齢者との競技種目『じゃんけん列車』を実施し交流の場となった。また，地域の行事への参加として，9 月に全校児童よる高齢者への励ましお手紙を出している。丁寧な返事をもらいともに励まし合っている。

また，敬老会への参加や１０月の水木秋祭りには，３年生が『水木っ子ソーラン』の発表で参加して地域の方々と交流を深めている。

ク　５年生の行事の１つとして，９月に「里美民泊」の宿泊学習を実施している。
２学期に宿泊学習でお世話になる民泊家庭の方々とは，1 学期からファックス や手紙を通じて交流を続け，宿泊学習終了後も感謝の気持ちを綴ったお礼の手紙やかかし祭りへの参加，年賀状，文集の送付というように年間を通して，交流を深めている。１泊２日の中で家族の中に溶け込み寝食をともにする。民泊家庭の方々からも返事が届き，長期にわたり心の通った交流を行っている。
児童にとって，この体験学習では，多くの貴重な経験となり人への愛着心，地域への郷土愛，温かい愛情あふれる交流は，児童にとって一生忘れられない貴重な思い出となっている。

＜ネイチャークラフト＞

＜ 民泊家庭で餃子づくり＞

＜ カレーづくり＞

（３）人権に関する啓発活動
ア「人権メッセージ」の実施
「人権メッセージ」は，児童が人権について考えるきっかけとなる有効な方法である。自分なりの考えや思いを自分のことばで表現することで，人権意識が高まっていくと考えられる。
イ 各種たよりの発行
「いずみ」（学校だより）や「はまぎく」（生徒指導だより）を通して，保護者や地域の方々にも人権教育に関する本校の取り組みについて知らせ，理解啓発を図っている。

３　研究の成果
（１）「いじめ０運動」は，家族での話し合いからスタートしたので，子どもたちだけでなく家族の思いや願いが込められた有意義な活動だった。
（２）アンケートや QU テストで，学級の実態や個別に配慮を要する児童を把握することができ具体的な対応が試みやすくなった。
（３）人権メッセージでは，人権について考えるよい機会となった。人権コーナーに掲示することで，友だちの考えや思いを知り，自他の理解や尊重につながった。

Ⅱ 今後の課題
毎年６月に実施される「いじめ０運動」だが，1 年に 1 度だけでなく，学級活動や道徳などの時間に「いじめ」についての話し合いを継続していきたい。また，軽い気持ちでのからかいや冗 談でも「ことば」によって相手を傷つけるということを折りにふれ指導する必要を感じた。ふ だんから教室内の言語環境に気を配り，児童の人権感覚や人権意識をより高め育てていきたい。

Ⅲ＜人権コーナー設置の様子＞